

『殺し屋の営業術』 野宮有 講談社



第71回江戸川乱歩賞受賞
「あなたは幸運です。私を雇いませんか？ この命に代えて、あなたを救って差し上げます。」営業ノルマは、2週間で2億円。稼げなければ、全員まとめて地獄行き。前代未聞の、「命がけの営業」が始まる。

『古都琴子は好きに生きるので、あしからず』 汐見夏衛 スターツ出版



高2の夏。平穏なクラスにトンデモ転校生・古都琴子がやってきた。転校初日から、周りの目を気にせず自由気ままに振る舞う琴子は、「ザ・我が道を行くタイプ」の女の子で…。最強転校生の活躍を描く青春小説。

『ある謎解き作家の遺書』 藤崎翔 SCRAP出版



謎解きイベント制作会社の“謎制作課”に所属する舟木が亡くなった。警察から「謎解きに協力してほしい」と依頼を受けた同僚の4人は、舟木の自宅に急行するが…。書籍中の謎解きをしながらストーリーが展開していく、異色のミステリー。

『今日未明』 辻堂ゆめ 徳間書店



自宅で血を流した男性死亡、別居の息子を逮捕、マンション女児転落死、母親の交際相手を緊急逮捕、男子中学生がはねられ死亡、運転の75歳女性を逮捕…。新聞の片隅にしか載らない、小さな事件。その裏には、報道されない真相がある。

『スイッチ・ライフ』 夕鷲かのう 朝日新聞出版



興味のない婚活パーティーに半ば強引に参加させられた、保育士の理緒。そこで会社員の由弦と出会うが、些細な誤解から暴言を吐かれてしまう。翌日、何故かふたりは経歴も仕事も家族構成も同じだが自分たちの性別だけが逆転して…。

『さよならの保険金』 額賀澤 KADOKAWA



就活の最終面接の日、父の乗った漁船が転覆した。家族と就職先を一度に失った桐ヶ谷麻海は、東京で暮らす叔父・響介のもとに転がり込む。麻海は家事をやらない代わりに保険調査員の響介の仕事を手伝うことになる…。

『シークレット・オブ・シークレッツ 上・下』 ダン・ブラウン KADOKAWA



『ダ・ヴィンチ・コード』で有名な、ラングドン教授シリーズ6作目。宗教象徴学者ラングドンは、ある秘密のプロジェクトに関する衝撃の真実を知る。それは、人間の心についての常識を根底から覆すものだった。

『オリジン』 ダン・ブラウン KADOKAWA



ラングドン教授シリーズ5作目。スペインのビルバオ、マドリード、バルセロナを舞台に、最強の敵が立ち上がる。鍵を握るのは、人類最大の謎“我々はどこから来たのか、どこへ行くのか”。人工知能ウィンストンの助けを借りて謎に迫る。

『変な地図』 雨穴 双葉社



この古地図、何かがおかしい？ 謎の死を遂げた祖母、海沿いの廃集落、不可解なトンネル事故。やがて浮かび上がる「7体の妖怪」の秘密とは？ “変な家”の栗原が青年時代に遭遇した、マップ・ミステリー。考察マップ付き。

『さらば！店長がバカすぎて』 早見和真

角川春樹事務所



カリスマ書店員・谷原京子は、長いスランプが続いていた。そんな中、おもしろい本の話と店長のグチを言い合える唯一無二の元同僚の結婚式が行われる。自らの人生と書店の未来を切り開いていこうとする京子だが…。

『未来への人生ノート』 清水晴木 幻冬舎



自信満々の面接練習でいい人の壁に突き当たる千佳。好きな人に振り向いてもらえず、面白さの正体に悩む不器用な一平。就活を拒否し、自分探しの旅に出た直樹。目立つものが何もない自分に劣等感を抱く夕。そんな4人の前に現れたのは…。

『라이어하우스の殺人』 織守きょうや

集英社



お嬢様・彩莉は孤島に館を建設し、かつて自分の書いた小説を馬鹿にした相手を殺害しようと企てる。嵐の気配が近づく中、ターゲットたちが館に集められ、金にものを言わせた復讐劇は成功間違いなしのはずが…。

『スピーチ』 まさきとしか 幻冬舎



目に粘着テープを貼られた1人の女性の遺体。もの言えぬ彼女は、あの夜何をしていたのか。飲み会の帰りだったのかもしれない。不倫をしていたのかもしれない。夫もパート仲間も、本当の彼女のことを何も知らない。しかし、彼女にも“言い分”があり…。

『アミュレット・ワンダーランド』 方丈貴恵

光文社



客室でライブ配信中に殺された動画配信者、バーで落とし物を巡る争奪戦、バトルロイヤルのごとき殺し屋コンペ、そして、爆弾魔との限界心理対決。犯罪者による犯罪者のための「アミュレット・ホテル」の治安を守るホテル探偵の物語。

その他の新着図書

『境界のメロディ 2』 宮田俊哉

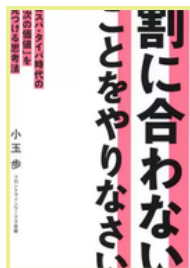
『文豪ストレイドッグス 太宰治の入社試験』 朝霧カフカ

『文豪ストレイドッグス 太宰治と黒の時代』 朝霧カフカ

『時々ボソッとロシア語でデレる隣のアーリャさん 10』 燦々SUN

『割に合わないことをやりなさい』小玉歩

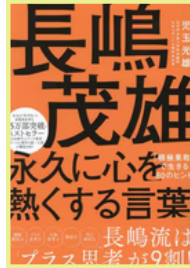
KADOKAWA



一見、割に合わない非効率なこと、遠回りに見えることの中にこそ、AIには決して真似できない人間ならではの力が眠っている。その力をどう引き出していくか。AI時代を生き抜く逆張り思考を伝える実践的な一冊。

『長嶋茂雄永久に心を熱くする言葉』

児玉光雄 清談社Publico



なぜ、長嶋語録は人の心を元気づけるのか？感動創出力、プラス思考力、右脳思考力、自己演出力、人望力…。長嶋流はプラス思考が9割。本当は科学的な長嶋流思考を、スポーツ心理学の第一人者が分析する。

『生きる言葉』俵万智 新潮社



言葉の力が生きる力とも言える時代に、日本語の足腰をどう鍛えるか、大切なことは何か。恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AIなど、様々なシーンでの言葉のつかい方を、歌人ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。

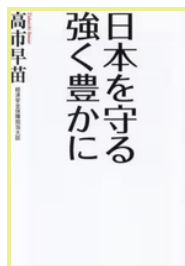
『京都のワクワクする大学博物館めぐり』

大坪覚 トゥーヴァージンズ



大学キャンパスの中にある本格的な天文台から、森にたたずむレトロな建築、京都駅のすぐそばで出会えるアートまで。京の都で知的好奇心を刺激する学びと体験をもたらす、大学博物館52件を紹介。

『日本を守る強く豊かに』高市早苗 ワック



新しい時代を刻む高市総理の政策とは。内憂外患の今こそ日本の舵取りは、この人に託された。揺るがない国家観、歴史観で皇統を守り、中国と対峙。高市早苗が、次世代の日本を築くために、必要な政策の数々を訴える。

『漫画 お金の大冒険』両@リベ大学長

ダイヤモンド社



平凡な小学生のソータは、ある日突然異世界に飛ばされた。元の世界に帰るため、仲間たちといっしょにお金にまつわる5つの力をきたえることになったソータだが…。100年後も変わらないお金の知恵を学べる物語。

『日本人には栄養が足りない』堀田泰宏

総合法令出版



日本人は食事自体は摂れていても、栄養不足であると言われている。特に不足しがちな栄養素である16種類の必須ミネラルを摂取し、体の不調を直し、病気を予防するには、「栄養リテラシー」を学ぶことが大切。

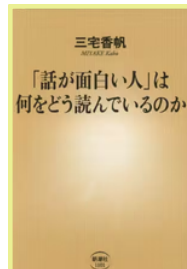
『集中メシ！』水野雅浩 すばる舎



集中力を上げる最も身近で最も有効な方法とは何か。それこそが「食事」である。最新研究のエビデンスを重視しながらも、日常生活で取り入れやすい食材や食事スタイルに的を絞り、集中力を上げる「集中メシ」を紹介する。

『「話が面白い人」は何をどう読んでいるのか』

三宅香帆 新潮社



社会や人生の「ネタバレ」が詰まったエンタメは、多くの人の興味も引く。ただ、作品を読み解き、その面白さを伝えるには、実は「コツ」がある。文芸評論家が自ら実践する「鑑賞」の技術を解説する。

『言語化するための小説思考』小川哲 講談社



伝えるのではない、伝わる言葉を、文章を生み出すために、小説家はいつも何を考えているのか？直木賞作家・小川哲が、執筆時の思考の過程（＝企業秘密）をおしみにく開陳。どうやって自分の脳内にあるものを言語化するかを解説する。

『最強の科学的筋トレ』フィンク・ジュリウス

SBクリエイティブ



世界中の科学的な研究によって今までの常識が覆される、日本人にとって有効な「最先端の筋トレ」を解説。また、筋肉づくりに欠かせない食事やサプリ、筋トレを続けるための習慣化のコツなども紹介する。

『効果絶大 自重筋トレ』今川泰憲

コスミック出版



1日10分・週2回からはじめられる！運動不足解消とダイエットに最適、使う器具は「ほぼゼロ」の自宅筋トレメソッド。トレーニングの専門家が提案する新しいスタンダードで理想の身体を手に入れよう。

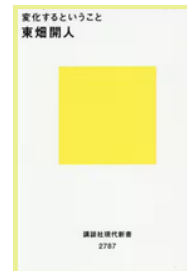
『不夜脳 脳がほしがる本当の休息』

東島威史 サンマーク出版



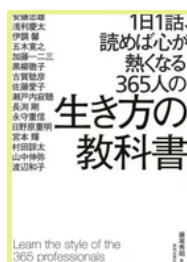
脳の老化には睡眠以上に「適切な刺激」を継続的に与えることが大切。では、その「適切な刺激」とは一体何か。脳は年齢に負けない。生活の質を上げ、仕事のパフォーマンスを上げる具体的な方法を伝授する。

『カウンセリングとは何か』東畑開人 講談社



すべての人の心に携わる死と再生のメカニズム。カウンセリングの原理と全貌を明かす。「第1章 カウンセリングとは何か心に突き当たる」から「第5章 カウンセリングとは何だったのか 終わりながら」までで構成する。

『1日1話、読めば心が熱くなる365人の生き方の教科書』安藤忠雄ほか 致知出版社



人生で真剣勝負した人の言葉は、詩人の言葉のように光る。村田諒太、山中伸弥など、各界の一流プロによる心が熱くなる365篇。時代や職業のジャンルを超越した人々の話から、自らの仕事や人生に生かせる教訓まで。

『はたらく細胞 01～06』清水茜 講談社



人間1人あたりの細胞の数、およそ37兆個。そこには細胞の数だけ仕事（ドラマ）がある。ウイルスや細菌が体内に侵入した時など、白血球と赤血球を中心とした体内細胞の人知れぬ活躍を描いた「細胞擬人化漫画」。